

話題72 本の紹介：玉城 英彦編集

「刑務所には時計がない～大学生が見た日本の刑務所」

衝撃的なタイトルである。沖縄県本島北部、古宇利島出身の玉城英彦教授の挑戦の書である。彼は、長年にわたり世界保健機関(WHO)を足場に世界を駆け巡った。疫学を専攻、基本姿勢として、グローバルな人材の育成を目指し、若者を刺激し続けている。

彼のこれまでの著書から、彼の視点、思い、情熱を覗いてみた。「恋島への手紙～古宇利島の思い出を辿って」(新星出版；2007年)がスタートラインにある。そうです。青い海。青い空。古宇利島の自然が、大海へと漕ぎ出す力を彼に与えたのです。「世界へ翔ぶ・国連機関をめざすあなたへ」(彩流社；2009年)。漕ぎ出せと若者の背中を押す。

国内においては水俣病の疫学研究がある。「社会が病気をつくる～持続可能な未来のために」(角川学芸出版；2010年)。「ともに生きるためのエイズ～当事者と社会が克服していくために」(彩流社；2012年)。現実を直視することから始める。しかも、常に社会とのかかわりの視点で因果関係を導き出す。同様に、「手洗いの疫学とゼンメルワイスの闘い」(人間と歴史社；2017年)も身近な疑問から、疫学の手法を駆使して因果関係を導き出している。

「北海道大学の挑戦」(彩流社；2017年)とそのⅡ(2018年)は彼の意図とするグローバルな思考過程の育成の手法と成果が語られている。北海道大学には、伝統として世界へ飛び出す素地があった。「新渡戸稲造～日本初の国際連盟職員」(彩流社；2017年)にその背景が記されている。今回の企画は、グローバルリーダーを育成するための北海道大学の特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」のゼミの一つであり、玉城教授が先導する。自らの常識に疑問を抱き、物事の本質を見抜く力を育み、若者に自らの生きざまを描かせる衝撃のテーマである。

私の目の前の課題と共通するものがあり引き込まれた。医療の側面である。私は、現在もハンセン療養所の診療に従事している。そこには、偏見というとてつもない高い壁と空間がある。人間が、社会が創り出した偏見の壁である。

教授は、刑務所を教材の一つに選択した。その高い壁と時の静止した空間。刻まれることのない時と空間の真ただ中での高鳴る心臓の鼓動。課題は残された。この時と空間を、現実の社会とどのようにして連続性を持たせるかである。

「刑務所には時計がない」。自由が奪われ、静止した時、この一点から、多くの若者が自らの生き方を描く突破口を見いだすことが期待される。北海道からの挑戦ではあるが、沖縄の若者にもけしかける啓発の書である。

晴読雨読

石川 清司

洗いの疫学とゼンメルウィスの闘い」(人間と歴史社・17年)も身近な疑問から、疫学の手法を駆使して因果関係を導き出している。

「北海道大学の挑戦」(彩流社・17年)とそのⅡ(18年)は彼の意図とするグローバルな思考過程の育成の手法と成果が語られている。北海道大学には、伝統として世界へ飛び出す素地があった。「新渡戸稲造く日本初の国際連盟職員」(彩流社・17年)にその背景が

として世界へ飛び出す素地

教授は、刑務所を教材の一つに選択した。その高い

壁と時の静止した空間。刻まれることのない時と空間の真つただ中での高鳴る心臓の鼓動。課題は残された。この時と空間を、現実の社会とどのようにして連続性を持たせるかである。

「刑務所には時計がない」。自由が奪われ、静止した時、この一点から、多くの若者が自らの生き方を描く突破口を見いだすことが期待される。北海道からの挑戦ではあるが、沖縄の若者にもけしかける啓蒙の書である。

(人間と歴史社

・2200円)

玉城 英彦編集 「刑務所には時計がない」

衝撃的なタイトルである。沖縄県本島北部、古宇利島出身の玉城英彦教授の挑戦の書である。彼は、長年にわたり世界保健機関(WHO)を足場に世界を駆け巡った。疫学を専攻、基本姿勢として、グローバルな人材の育成を目指し、

国内においては水俣病の疫学研究がある。「社会が病気をつくる」持続可能な

若者の視野広げ、背中押す

若者を刺激し続けている。未来のために」(角川学芸

彼のこれまでの著書から出版・10年)。「ともに生きるためのエイズ」当事者

ぞいてみた。「恋島への手紙」古宇利島の想い出を辿る。しかも、常に社会との

7年)がスタートラインにある。しかも、常に社会との

ある。そうです。青い海。かかわりの視点で因果関係

青い空。古宇利島の自然が、を導き出す。同様に、「手



いしかわ・きよし 1948年本部町生まれ。岡山大学医学部卒。呼吸器外科専攻。国立病院機構沖縄病院院長退任後、介護老人保健施設「あけみおの里」施設長。著書に「つたえてください小指鬮記」「医者を目で見た患者学」など。